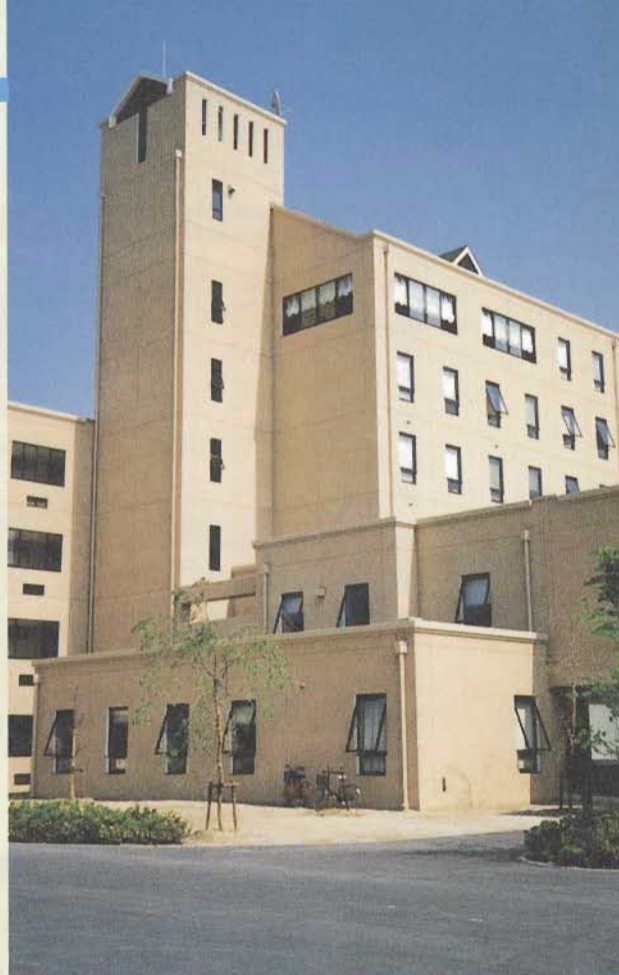


西条キャンパス周辺の研究団地紹介

近畿大学工学部

テクノポリスの中核の地
東広島への移転を機に
時代に即応した工業教育を展開

近畿大学工学部は、21世紀に向けた教育・研究体制の整備充実を図るために、今春広島中央テクノポリスゾーンの一面東広島市の高屋地区に移転した。これまでの呉キャンパスと合せ、地域に貢献する実践力を養成するため、今、さらに大きな飛躍をめざしている。



豊かな自然と、ベージュ色の外観が落ち着いた雰囲気をかもし出すA館本館棟



白を基調としたB館ホールは、明るくゆったりとし、学生のくつろぎの場となっている



240台の端末を備えた電算機センター
呉キャンパスとも接続し、相互の利用が可能である

緑に囲まれた
広大なキャンパスの
充実した教育施設

本学部は、既存4学科（工業化学科・建築学科・機械工学科・経営工学科）のうち、今年度はまず、工業化学科と建築学科の2学科を東広島市の新キャンパスに移転した。
ここ東広島市は、広島中央テクノポリスの中核都市として、賀茂学園都市計画および広



"Rest House 樺の辺"では、350席の他、テラスで青空の下、食事をすることもできる

鳥島の産業活性化をリードする工業技術研究の一大拠点づくりが進められている。工学部のキャンパスを開設するにはまさに理想の地といえる。

新キャンパスは41・5ヘクタールの広大な敷地をもち、現在すでに、本部棟、教室棟、研究・実験棟、食堂、売店棟が完成している。建物は中世ヨーロッパ風の重厚なデザインで学生たちは落ち着いた雰囲気の中で学べる絶好の環境といえる。

時代をみつめた

特色のある

カリキュラム

本学部は、総合大学の工学部として、しっかりとした教育体制を整えている。「工学は行動的学問」との基本理念による基礎学科目の段階からの実験・実習・演習に重点を置いたカリキュラムの編成。また、卒業研究ではそれぞれが希望する専攻に応じて学生たちは各研究室に属し、マンツーマンに近い指導が行われている。

情報化時代に対応して、大型コンピュータによる電算機の基礎科目と実習を全学科に取り入れていることも特色といえる。具キャンパスのセンターには、ホストコンピュータとしてFACOM M360AP、パ

ソコン端末84台などが導入されている。東広島キャンパスには、移転と同時にホストコンピュータとして最新鋭大型コンピュータFACOM M770/8、パソコン端末240台などを導入した。両キャンパスのパソコン端末は高速LANでホストに接続され、また両キャンパス間は専用的高速デジタル回線で接続されているので、高度かつ相互の利用が可能である。

新キャンパスには今後、時代を先取りした新学科の増設、大学院の設置構想、市民講座の開設などを予定しており、広大なアカデミックゾーンの中で地域と密着した開かれた大学をめざしている。

新時代の

ニーズに応える

各学科

2つのキャンパスを合せもつ本学部は現在、工業化学科、建築学科（東広島キャンパス）、機械工学科、経営工学科（具キャンパス）の4学科で構成されている。

工業化学科は、化学工業の目ざましい技術革新に対処しうる技術者・研究者の育成を目標とし、専門知識と技術をバランスよく修得するための主要科目が系統的に講義されるほ

か、情報科目が開講されている。有機工業化学第一、同第二、高分子化学、物理化学、分析化学、無機・化学工学の6研究室がある。

機械工学科は、産業界のニーズに応えるメカトロニクスなど新しい分野の学問を取り込むとともに、実学を重んじ、学問研究に対する学生の活性化、創造力、問題解決能力を養成するために、実験・実習・機械設計製図を重視した教育を行っている。金属材料、機械工作、流体工学、熱工学、材料力学、機械力学の6研究室があり、実習室も充実している。

経営工学科は、生産・販売・流通・人事・オフィスなどに多種多様の固有技術とコンピュータ利用技術を総合し、ひとつのシステムとして生かしていく経営管理技術の必要性が問われている時代に対応できる人材育成を目的とした、高度な専門教育を行っている。生産工学、生産管理、数理工学、情報処理、システム工学、人間工学、経営管理技術の基礎・応用を身につける。

建築学科は、建築工学と建築計画の両面で、建築学の主要科目の理論と演習に重点を置いた、レベルの高い技術教育が特色。建築計画、建築意匠、歴史意匠、都市計画、構造第一、第二、建築基礎、環境設備、材料・施工の8研究室を設置し、充実した実習が展開されており、豊かな生活環境づくりをめざしている。